

福祉学習が始まりました

第1学年では生き方学習の一環として「福祉学習」が始まりました。

『福祉』=『幸福』という意味があるということ、どれだけの人が知っていたでしょう。今回の生き方学習では、『福祉』について学習し、障害者理解を深め、相手の立場になって考え、そして気づくことによって、共に生きるとは…どういうことか考えています。

“車いす体験”や“アイマスク体験”も行いました。福祉というのは障害者や高齢者にだけ特別なことではなく、いろいろな人がいて、みんなが幸せになれるように、みんなが命を大切に思う心、支え合う心を大事にしていくことだと気づいた人も多いです。



【感想文より】

今日、アイマスク体験をして思ったことは、実際に自分でやってみると腰が引けてぜんぜん動けませんでした。階段では何回もこけそうになりました。今回の体験で学んだことは、目の不自由な人の身になって考えることです。（A組）

車いすの使い方がわかりました。車いすを開く時は、座る部分を両手でていねいに開くこと。小さな段差でも引っかかってしまうので、ステッピングバーを使うこと。速く進むと座っている人が不安になることなどです。途中で「速くない?」「このぐらいの速さでいい?」などと会話でコミュニケーションをとりました。（B組）

アイマスク体験は、アイマスクをつけている時は真っ暗だからすごく耳を使った。耳しか頼れない感じがしました。介助してくれる人は声で教えてくれるから、耳にずっと意識を集中させました。風が吹くだけで怖くて、本当は何もないのに何かあるような気がしました。（C組）

車いす体験を通して、自分のことばかりではなくて、相手のことを考えなくてはならないと感じました。車いすに乗ってみて腕の力がすごくいるなあと感じました。握力のない人はどうなるのかなと気になりました。（C組）

アイマスク体験では目の前が真っ暗になる恐怖感がありました。視覚障害者のつらさは自分が思っているよりも大変だということがわかりました。また、介助の仕方では、まず介助をおこなう時は周りの状況をよく理解してから声をかけることなどを学びました。（D組）

車いす体験をしました。実際に車いすに乗ってみて、どんな場面が困るのかよくわかりました。そして、必要以上の介助をしない、できることは自分でやる、ということの大切さを学びました。（E組）